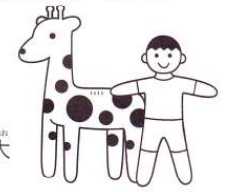
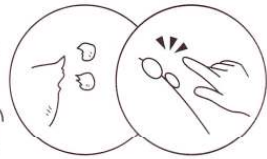




おがくずねんど もくねんさんの特長

おがくずねんどもくねんさんは、あぶらねんどや紙ねんどとはちがう特長が、いろいろあります。

- ①かわく前のねんどは、おたがいがよくつきます。ちぎったねんどをそのままつけたいところにつけ、形を整えられます。
- ②かわいたら木と同じようにほることが出来ます。
- ③かわくと軽くなり、水にうきます。
- ④軽くてもじょうぶなので大きな作品もつくれます。



もくねんさんであそぶ前に

- よくねってからねんどをつかきましょう。
- 風通しのよいところで、ぬの上の2~3日以上おいてかわかしましょう。 ※紙の上でかわかすと紙がはがれなくなることがあります。
- 残ったねんどは、かわかないようにビニールやラップで包んでおきましょう。

あるとべんいな道具

※はものをつかうときは注意しましょう。

<p>ハサミ ねんどを切りはなしたり、切れ目を入れます。</p>	<p>のぼし棒 ねんどをたいらにのぼすときにつかいます。</p>	<p>ぬき型 のぼしたねんどから形をぬきます。</p>	<p>絵の具 ねんどに色をつけます。色つきのペンでもできます。</p>
<p>彫刻刀 かわいたねんどをほります。</p>	<p>紙ヤスリ かわかしたねんどの表面をすべすべにします。</p>	<p>ねんどペラ すじやもようをつけます。</p>	
<p>木工用接着剤 部品や、こわれたところをつけます。</p>	<p>つまようじ 細かいところにつかいます。</p>		

きほんのテクニック① まるめてつくる

コマ

- ①ねんどをピンポン玉ぐらいの大きさに切ります。
- ②まるめます。
- ③つまようじを2cmほどに折って、ねんどにさします。
- ④形を整えてかわかします。

きみだけに おしえる **テクニック** その1 **色をつける**

アクリル絵の具をつかうと、きれいに色がつきます。ニスやマニキュアをぬると、水に強くなり、びかびかになります。

もくねんさんからのアドバイス

手のひらをつかって、すり合わせるようにまるめましょう。
※あまり強くまるめると、すじがつくこともあります。

できあがり!

- ⑤かわいてから、好きな色やもようをかきます。

memo 補修ねんどのつくりかた

作品をつくっているときゅうで、ひびわれり、きずがついたりすることがあります。そんなときは、補修ねんどをつかって、ひびわれりやきずにくみこみましょう。

- ①ねんどを小さくちぎります。
- ②①を入れ物に入れ、水にひたします。
- ③5分ほどおいて、手でよくもみます。
- ④やわらかくになったら、つかいましょう。

きほんのテクニック② のぼしてつくる

えんぴつたて

- ①好きな形の入れ物の外側にラップをまきます。
- ②ねんどを細長くのぼします。
- ③①に②のねんどをまきつけます。
- ④とちゅうで足りなくなったら、ねんどをつき足します。

きみだけに おしえる **テクニック** その2 **すべすべにする**

ねんどがかわいたら、でこぼしたところを紙ヤスリでこすりましょう。すべすべになって、色がきれいにぬれます。

もくねんさんからのアドバイス

ねんどの中心から外側に向かってねんどをのぼしていくと、じょうずにのぼすことができます。

- ⑤底の大きさにのぼしたねんどをはりつけます。
 - ⑥かわいたら、ラップごと入れ物をぬきます。
 - ⑦好きな色やもようをかきます。
- できあがり!**
-

きみだけに おしえる **テクニック** その3 **色をねりこむ**

ねんどにお菓子づくりなどにつかう食用色素をほんの少しねりこんでみましょう。かんとんにねんどに色がつきます。

きほんのテクニック③ 型でぬいてつくる

メダル

- ①ねんどをてきとんな大きさに切ります。
 - ②ねんどをたいらにのぼします。
 - ③コップなどをつかって、ねんどをまるくぬきます。
 - ④先のとがった物でひもを通す穴をあけます。
 - ⑦ひもをつけます。
- できあがり!**
-

きみだけに おしえる **テクニック** その4 **金具をつける**

かわく前に、金具をうめこんだり、かわいてから、ねじをねじこんだりしてみよう。接着剤でピンをつけたりもできます。

もくねんさんからのアドバイス

型の中にはりついたねんどは、指で軽くおすとじょうずにとることができます。

- ⑤ねんどにラップをかけ、おもしろをせてかわかします。
- ⑥かわいたら、好きな色やもようをかきます。

できあがり!